

■放言から、積み荷没収とキリスト教徒の処刑へ

サン・フェリーペ号の司令官マティエース・デ・ランデーチョは、フェリペ・デ・ヘスースを含む数名の乗員や乗組員を太閤のもとに差し向けて、船を修繕する許可と身の安全を保証されることを求めようとした。しかし、謁見は許されず、太閤は奉行の増田長盛^{ましたながもり}を土佐に派遣しました。そして、この船の船荷を没収して大坂へ送らせました。その際、フランシスコ・オランダという航海長が、増田もしくはその周辺に語ったとされる「スペイン国王は、まずフラーデ（宣教師）を派遣し、土民をキリスト教徒とし、ついで軍隊を派遣して征服する」⁽²⁾との趣旨の言葉が太閤を大いに刺激したようです。

因みに、わが国には鎌倉時代の海洋法「廻船式目」や、太閤自身が制定して船主の権利を強調した「海路諸法度」があったにも拘わらず、彼はこれを見做して難破船や乗組員に対応するほど、オランダの言葉が与えた影響は大きかったようです。

この時、フランシスコ会は「伴天連追放令」によって宣教師の来日が禁じられていましたが、マニラ総督の使節と称して数人の宣教師が渡来し、時の関白秀吉から都に与えられていた妙満寺で布教活動を行っており、宣教師たちも禁教策が緩和されたように理解していた時期でありました。しかし、豊臣政権ははやくからこの動きを注視していました。そこへ、太閤への謁見が許されなかった同会の修士フェリペ・デ・ヘスースが加わったのです。

オランダの不用意な言葉は明らかに太閤を激昂させていました。太閤は都や大坂にいたフランシスコ会員を捕らえましたが、フェリペ・デ・ヘスースについては「彼自身は処刑者名簿に入っていないが、みずから希望して仲間となり…」⁽³⁾とされています。やがて彼らは徒歩で長崎へ送られ、慶長元年十二月十九日（1597年2月5日）年に処刑されました。

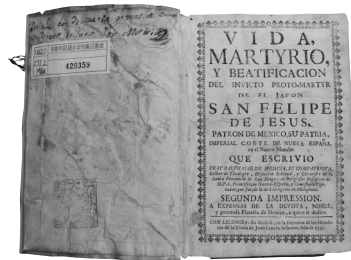
■聖人への尊敬の念を込めた書物（本学図書館所蔵）

この取り締まりによって、フェリペ・デ・ヘスースと共に殉教した26人（内、20人は日本人）は、まず彼を含むフランシスコ会の23人が1627（寛

永四）年に列福され、残るイエズス会の3人が1629（寛永六）年に遅れて列福されました。そして1862（文久二）年には全員が列聖され、以後、「日本二十六聖人」と呼ばれることになります。

その後、フェリペ・デ・ヘスースへの尊敬の念を込めた書物が母国メキシコや宗主国のスペインで刊行されていきます。

本学図書館が所蔵している *Vida, martyrio, y beatificación del invicto proto-martyr de el Japón, San Felipe de Jesús, patrón de México, su patria, Imperial Corte de Nueva España, en el Nuevo Mundo.*（写真）は『メキシコの守護聖人で日本最初の殉教者聖フェリペ・デ・ヘスースの生涯と殉教、列福』と訳されます。彼が殉教して154年後の1751年にマドリードで発行されたもので、副書名は「新世界の新スベ



ン（ヌエバ・エスパーニャ）王室、即ち（彼の）祖国であるメキシコの守護聖人である、不屈の人、日本最初の殉教者聖フェリペ・デ・ヘスースの生涯と殉教、列福』と翻訳されます。本書が第2刷であることを見ても、彼の殉教は関心が高かったものと思われる。

また、*Vida de San Felipe de Jesús protomartir [i.e. proto-martir] dl [i.e. del] Japón.*（写真）は『日本最初の殉教者聖フェリペ・デ・ヘスースの生涯』と訳される画集で1801年にメキシコシティで刊行され、木版画30枚で構成されています。版画は18世紀後半から19世

